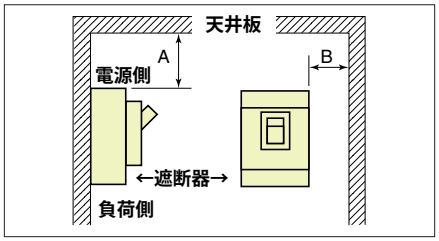
電源側の絶縁距離（アークスペース）

遮断器が大電流を遮断したとき、電源側の排気孔からアークガスが噴出します。この排気孔のすぐ近くにしゃへい物や導電材があるとこの部分でアークによる短絡や、地絡事故を起こす可能性があります。このため遮断器取付にあたっては表に示す絶縁距離が必要です。

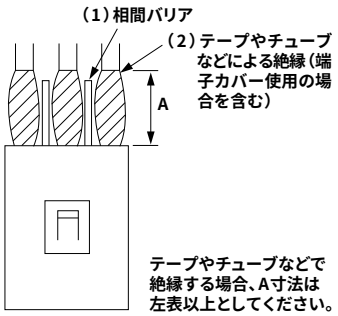


■遮断器電源側絶縁距離

（　）内の寸法は400V級の場合です

区分	フレーム	最小寸法(mm) A	最小寸法(mm) B
1	30Aフレーム 50Aフレーム (B-52、53、54FKAを除く) 60Aフレーム	30	25
2	B-52、53、54FKA 100A、150Aフレーム	40 (60)	40
3	225Aフレーム 250Aフレーム	50 (100)	40
4	400Aフレーム 600Aフレーム 800Aフレーム	80 (110)	50
5	1000、1200Aフレーム 1600、2000Aフレーム 2500、3200Aフレーム	150 (190)	100

表面形遮断器電源側の裸導体間は、相間バリア又はテープやチューブなどで絶縁してください。
（下図（1）又は（2））



安全ブレーカのソルダレス端子

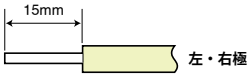
GB-1ZA・2ZA、2EAのソルダレス端子への直付接続について

■より線はほぐして、芯線をそろえてから接続してください。
■より線のハンダ上げやバインドはしないでください。
■電線の絶縁被ふくをかまない様に接続してください。
■機器用電線など、3.5mm²以下の細いより線を使用する場合は、棒圧着端子をご使用ください。

電線ストリップ寸法について

パールミニブレーカ、パールミニ漏電ブレーカの接続方法

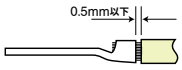
電線ストリップ寸法について



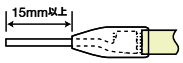
■接続方法

①被覆を6mmむく

②圧着端子に通しかしめる



③絶縁キャップをかぶせる



適用電線
より線　3.5mm²～5.5mm²

適用圧着端子
ニチフ製TC 5.5-21ST-C
または同等品

適用圧着工具
ニチフ製NH1、NH9、NA3(NA3 7)
または同等品

線押え方式端子（圧着端子兼用）の接続方法について

■電線を直接接続する場合は、電線をまっすぐさし込み適正なトルクで締め付けてください。
■より線の場合は、電線が片方に寄らないように振り分けて接続してください。

ブレーカへの2本の電線の接続について

■ソルダレス端子方式の場合

安全ブレーカタイプにやむを得ず電線を2本接続する場合は、φ1.6とφ1.6または、φ2とφ2の組み合わせ以外の複数電線接続は避けてください。
（端子への接続方式一覧は、P.B-271～P.B-272参照）

●B-1EA、B-2EA、GB-1ZA、GB-2ZA、GB-2EA、GBU-3・1EA、GBU-3・1HEA等

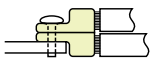
■線押え方式（圧着端子兼用）の場合

B-53EC等の線押え端子を持つ器種に電線を2本接続する場合は、同一サイズの電線で接続してください。その際、心線を振り分けないで直接接続してください。
異径電線の組み合わせで接続する場合は、圧着端子をご使用ください。

ブレーカへの圧着端子の接続方法

■2個接続の場合

①上下背あわせに接続してください。
②圧着端子の大きさがちがう場合は、大きい方を下側に接続してください。
③下側の圧着端子は14mm²以上の取付可能なものを使用してください。



標準使用条件

【配線用遮断器】【漏電遮断器】

遮断器は次の標準使用条件で使用されるものとする。
JIS C 8201-2-1、JIS C 8211
JIS C 8201-2-2、JIS C 8221
JIS C 8222

■周囲温度　－5～40℃の範囲内。ただし24時間の平均値は35℃を超えないこと。
■標高　取付場所の標高は、2000mを超えない。
■湿度　相対湿度は、最高温度40℃で85%を超えてはならず、結露のないこと。

漏電遮断器などの施設場所

内線規程　1375-3
漏電遮断器などは、容易に点検できる場所に施設すること。（機械器具に内蔵される場合を除く）
次の各号のいずれかに該当する場所に施設しないこと。
① 高温場所
② 湿気の多い場所
③ 水気のある場所
④ 特に振動の著しい場所

遮断器の接続について

遮断器の接続は、「電源側」「負荷側」の表示どおり正しく接続してください（正接続）。「電源側」「負荷側」を逆に接続した場合（逆接続）、遮断性能が低下するおそれがありますので避けてください。また、漏電遮断器などの内部にトリップコイルを装備しているものは、動作した場合、トリップコイルに通電され続けるため、トリップコイルが焼損するおそれがありますので、必ず「電源側」「負荷側」の表示にしたがって接続してください。
各機種の逆接続可否は、器種一覧表の項目を参照ください。